

# ときめき

第2号

彩の国いきがい大学春日部学園22期校友会

<https://kasukabe22.jimdo.com/>

# 平成 29 年度 22 期校友会の 1 年

年	月	日 (曜)	校友会・春連協 参加事業	
29 年	2 月	17 日 (月)	設立総会	
	3 月	14 日 (金)	第 1 回 協議会	
	4 月	20 日 (木)	第 1 回 理事会	
	5 月	1 日 (月)	22 期ホーム・ページ立ち上げる	
		12 日 (金)	第 2 回 協議会・ 第 2 回 理事会	
	6 月	16 日 (金)	第 3 回 理事会	
	7 月	21 日 (金)	第 3 回 協議会	
		27 日 (木)	第 1 回 公開講座「水から見る文明の興廃」	
	8 月	11 日 (金)	第 4 回 理事会	
		28 日 (月)	臨時理事会 「春連協脱退についての審議」	
	9 月	15 日 (金)	第 3 回 協議会「春連協脱退が決議」 会報誌「ときめき創刊号」発行	
	10 月	20 日 (金)	第 5 回 理事会	
		27 日 (金)	春連協文化祭・演芸の部「22 期・気功クラブ」出演	
	11 月	8 日 (水)	親睦バス旅行 「妙義山紅葉狩り・世界遺産 富岡製紙場」	
17 日 (金)		第 5 回 協議会 第 1 回 プロジェクト・チーム発足		
29 日 (水)		第 39 回 春連協グラウンド・ゴルフ大会 「22 期校友会」参加		
12 月	15 日 (金)	第 2 回 プロジェクト・チーム 第 6 回 協議会		
30 年	1 月	19 日 (金)	第 3 回 プロジェクト・チーム 第 6 回 理事会 新年会「どん亭」	
		2 月	14 日 (水)	第 4 回 プロジェクト・チーム 第 2 回 公開講座 「オペラ歌手と一緒に歌う「トキメキ・コンサート」
			16 日 (金)	第 7 回 理事会 第 5 回 プロジェクト・チーム
	3 月	2 日 (金)	臨時理事会「理事候補」選出	
		16 日 (金)	第 8 回 理事会 会報誌「ときめき 2 号」発行	
		30 日 (金)	第 2 回 総会(予定)	



# いま思う事

22 期校友会 会長 長内 正行

昨年 3 月、22 期校友会発足後 10 か月を経て、いまこのタイミングで寄稿の機会を得ました。これまでの校友会活動を振り返り、私なりの皮膚感覚で話してみたいと思います。

22 期校友会を船出するにあたり会員の皆さんに語り掛けました。それはこの 1 年よき仲間・絆という財産を貰い、この思いを継承するのが 22 期校友会です。 **校友会は器**です。

中身を作るのは 1 人ひとりが主役の「あなた」ですと・・・。

## 結論として

22 期校友会を設立時、共有した強い絆がより強く増進・拡充されたという事です。各クラブ活動の和気あいあいムードがこぼれる様な雰囲気、フレンドリーな談笑とその心地よさの余韻が残り、次に来るのが少々(笑)アルコール交じりの四方山話、分け隔てなく打ち解けた

空間を醸し出し、しかも笑い声が絶えず。

どれもこれも走馬灯のように楽しく思い出されます。又、班活動に於いても活動頻度の差こそあれ 各班その中身は共通していることを確信します。 特筆したい事は、ホームページ立ち上げが前述したことを具現化に果たした役割は顕著で功績大という事です。

## 春連協からの独立について

- ① いきがい大学卒業と同時に校友会が発足し、「春連協」という組織に属することになっている。この「春連協」は各期の代表者で組織されており、その企画・運営が校友会活動の大きな妨げとなっている。校友会との関りは春連協だよりと文化祭・グランドゴルフ参加者のみと対象が極めて限定的である
- ② 校友会があり、春連協があるという構図になっていない、これは当初描いていたことと真逆と感じました。
- ③ 校友会の活動に対し春連協がどのように係るのが見出せない、等々 22 期校友会活動が更なる発展のため、このまま春連協に残留するか 脱退して自主独立路線の道を選択するか、どちらが会員の皆さんに

利するか 自分の中で自問自答を繰り返すと約 4 か月、悶々とする日々。そこで出した結論は 22 期校友会の春連協という枠から外すという苦渋の選択でした。

春連協に費やす精神的エネルギーと割かれる時間を校友会に集中するという事です。

次に、会員の皆さんに説明・理解・協力を得るということです。執行部会・理事会・臨時理事会を重ね、そして臨時理事会に於いて全会員の意見を各班長から発表してもらったところ、消極的賛成含め脱退の反対意見が 5 名という結果でした。

## 22 期校友会のこれから

肩が凝らず、自分のペースで、生き甲斐を実感できることの一助になれば良い。そして健康寿命が延び、それ自体社会貢献に直結すると考えます。要約すれば余生は「**明るく楽しくがコンセプト**」です。全員参加型の楽しく愉快的仲間づくりが不可欠と考えます。全体活動の原点はクラブ活動・班活動の横串連携の交流

促進が唯一無二と確信するところです。大切なことは組織・計画が会員の負担になるのは避けねばならないという事です、独立の趣旨が相殺されるからです。その意味で、**クラブ活動及び班活動に重点を置いた会でありたい**。これが私の理想です。

分かりやすく言えば 最後は どこかの場面でクラブと班が自由に融合し同好会で存続すれば良いと考えます。事業活動を含め全員によるアンケートの結果を最大限反映したいと考えております。

## 提 案

全体活動は年 3 回とし、2 回は予算措置・1 回は参加者の実費負担 (忘・新年会等)。アイデア・工夫・そして知恵と汗? で皆さんと作り上げていく。

## 結びに付言を 2 つ～独り言

1. 鶴の恩返しならぬ社会への恩返しとして、社会貢献何かというのが私の不変の思いです。

2. クラブ・班・集約等は必定。

理由～森羅万象あらゆるものに終焉あり。

## 1. 企画部が22期校友会の価値を決める

昨年3月、右も左も不明、何をするのか霧の中、そんな黎明期に「春日部学園 22 期校友会の真価は企画部の力量で決まる」、こんな声が聞こえてきた。「22 期校友会に参加してよかった」と会員に実感してもらって初めて本物になるという。これは会員一人ひとりが誇りを持つような事業の実施をせねばならぬことを意味する。校友会のもう一つの使命は班活動の活性化である。食事会だけでは班活動が継続しない。何かインセンティブが欲しい。班活動にはテーマが必要というのだ。どのようにすればこの二つが実現できるのか？これが企画部に突き付けられた課題であった。

## 2. 知的好奇心を刺激する学習的事業

当初から校友会には三つの事業予定されていた。学習的事業が2回、親睦的事業の1回。前節で示した二つの命題に答えるための第一歩として、学習的事業の目標を「知的好奇心の刺激」においた。春日部学園 22 期いきがいで大学での講義の多くがハウツウものであった。「介護保険の受け方」がその代表例である。

「ハウ・ツウ物は物足りない」、が大方の実感であった。

校友会の学習的事業ではそれらの二の舞をしてはな

らない。このような観点にもとづいて選んだのが「水から見る文明の興廃」を主題とする講座であったのである。特筆すべきはこれを公開講座として22期校友会以外の人にも参加の道を開いたことである。その結果、埼玉県環境部の現職員を含め外部から 30 名もの参加をえた。このことは講座がタイムリーであることの証であり、そしてこれが地域貢献したことを意味する。さらに、質問を事前に参加者に伝えて、講演終了後、設問に対する答えを班毎に発表してもらうことにした。班活動の中でこの設問を話題にもらうことが班活動のインセンティブになったと考えている。一方的なレクチャーではなく、講師と参加者との双方向の交流もここにあった。

蛇足ながら追記したいのは、この公開講座の講師は22期校友会の会員であった点である。講師が身近にいるおかげで、きめ細かい打ち合わせが可能となり、公開講座の完成度が高まった。

## 3. 全員で創る親睦的事業

「今日はワクワクして4時に起きてしまった」

「一人で参加」したが、楽しく交流できた」

「妙義神社の階段がきつかったが、登れて達成感をえた」

「多くの人の顔と名前が一致できた」

「温泉が良かった」

こんな感想が寄せられた。これらの言葉を聴くと「班活動の範囲を越えて、会員相互の友好をリニューアル化し、それに加えてあたらしい友人を作る」という親睦的事業の目的が見事に達成できた、と嘯いて(うそぶいても許されるであろう。ここに来るまでには以下の示すような長い道程があった。親睦のためには、現地集合・現地解散より、バス旅行のほうが望ましい。だが、その一方、どこに行くか？何をするか、コストをどう回収するか、参加者何名になるか？など次から次に疑問が湧き出してくる。それに答えるためには、多くの作業が必要になる。まず初めに、旅行会社から候補地を提案してもらった。その

結果、潮来・つくば・深大寺・大洗・奥多摩・妙義の6か所であった。

6か所すべて下見した。その結果に基づき潮来と深大寺と妙義の3か所に候補地を絞り込んだ。この3か所を22期校友会会員に書面とHPを通じて開示し、全員の投票で最終的に妙義神社・富岡製糸場に。次の仕事は当日のイベントの手配である。長内会長の手品の実演とカラオケクラブによる全員合唱をメインイベントとし、それに加えて、名刺交換、小豆拾い、宝くじ、などのゲームを準備した。いずれも企画部員の手作りである。こうすることにより企画部員を含め会員全員の参加意識が高まったと考えている。

## 4. 第2回学習的事業は22期の評価を高める

第2回学習的事業として何を希望するかを第1回学習的事業の参加者にアンケートで尋ねた。その答えは“コンサート”であった。この答えに接し、思わず頭を抱えた。無料のエンターメント的コンサートはどこにもある。こんなものを繰り返しても意味がないからである。

われわれのコンサートは一捻りもふた捻りも必要だ。こんな思いから

企画したのが“オペラ歌手と一緒に歌うときめき

コンサート”であったのである。

「22 期さんで、こんな立派なコンサート企画するとはすごいですね」、「こんな機会はめったにないのでぜひ参加したい」

これは第2回学習的事業として予定しているときめきコンサートの

チラシを見たとき7期と13期同窓生が見せた反応である。

「ひ弱で脆弱な22期校友会を育てることに手一杯なため人的リソースに余裕がない」を春連協から脱退する理由としている限り、「22期は違う」を内外に示すことが春連協を脱退したことを正当化する唯一の方法である。上記した同窓生の言葉はこのことが実現しつつあることを端的に示している。22期校友会が単なる「仲良しクラブ」にとどまっていることはもう許されない。もっと言えば、崇高で格調高い組織目標を掲げ、それを具体化する事業を続けることが22期校友会の価値を高める。それがあって初めて22期校友会の会員であることが誇りになり、会員は脱落しない。その原動力は現在の企画部に萌芽しているといっても間違いはない。

親睦的事業で評価が高かった名刺交換ゲームは大屋保子が開発したオリジナルだ。わずか2万円のギャラで本物のオペラ歌手ピアニストを呼べるのは松永佳世子の人脈のおかげだ。パンフレット等は奥野・近藤が担当した。佐藤英子はキャッチ・コピーの大家だ。喜多政子と齊藤勉は金銭の出入りをきめ細かく管理してくれた。石川美佐子はいつも明るく、会場の受付役をかってくれた。本間正直は黙々と会場準備など裏方役に徹してくれた。このように、それぞれ持ち味を生かして、この一年間各種事業に対応してきた。企画部長として8名のメンバーの献身に対して心からお礼をいいたい。

第一回学習的事業には約70名・懇親的事業約40名・オペラ鑑賞会には100名の方たちが参加してくださいました。

校友会事業は参加者があってこそ意義をもつ。

賛同くださった方々に大変感謝している。

ありがとうございました。 企画 部長 奥野 長晴

# 班 紹 介

## 2017年度の活動（1班）

1班 有田 英一

2017年度スタート当初みんなで計画したイベントは、全員参加で仲良く楽しく予定通り終了。

### ① 元荒川河畔花見【3月】

寒い中、誰もいない元荒川河畔で花見、物珍し気に笑いながら過ぎ去る人、小学生と合流し若者に戻った気分⇨最高に楽しい。

### ② 首都圏放水路地底探索ミュージアム（龍Q館）【6月】

大落古利根川等の洪水を江戸川に流す世界最大級の地下放水路、これまで105回稼働、水害防止に大きく寄与⇨日本人の発想、実行力に驚嘆。

### ③ 浅草東洋館&神谷バー【11月】

TVで売れていない若手芸人登場、物凄くうまくて面白い、みんな必死に努力しているんだな⇨俺たちもさらなる努力が必要と心に刻む（コント芸人の竹田君と写真撮影）

### ④ 鎌倉、熱海【12月】

泊まり込みで親睦会、酒も少々入り、途切れなく何時までも続くお喋りの嵐、嵐が過ぎ去るのをじっと待つ、女性の話題の豊富さ、頭の良さに驚くばかり、まだまだ若い女性ばかり、男どもは見習うべきと心を改にする。来年度の思いを心に抱きながら散会。



## 2017年度 2班活動報告

2班 石川 晃

昨年3月15日の卒業式の後、大宮駅東口の居酒屋に班員8名が集まり、打上げ会兼お別れ会を行ったのが活動の出発点だった。やがて宴も終わる頃、一人がこれから班は何をやるか。単に飲み会だけの集まりではなく、春日部周辺の名所・旧蹟を訪ねて自分達の地域を見直そうではないか、との提案があった。直に2名ずつ担当を決めて2カ月毎に実行することにした。

場所や内容は幹事に全面的に任せることにして、全員が参加することの意識を狙った。

第1回の杉戸宿見学会を皮切りに、龍Q館見学、池袋サンシャイン水族館、そして川口安行の紅葉狩り忘年会と合計4回举行了。

いずれも大盛況で、毎回7、8名が参加して班員の親睦を深めた。

これはいきがい大学の学園祭のとき、演芸部門の進行を担当した時の苦労が、班の結束を強めたと、思われる。

これからも班の絆を一層深めて行きたいと願っている。

次の年度にはどんな計画が出てくるのか、まだ班の誰も分からない。



## 4班（登喜芽希22）の活動状況

4班 大沢 薫

4班の集まりは、おおむね2カ月に1回、担当は2人1組になり順番に実施、全員参加を原則としています。

今年は、「葛飾・柴又散策」、「春日部で暑気払い」、「日比谷・丸の内のイルミネーション」「上野・鈴木演芸場周辺巡り」、など、それぞれ趣向を凝らした内容で、比較的身近なところでの集まりでした。そして、班の集まりには、班員の家族や他の班員も参加するなど仲間づくりの輪も徐々に広がって来ています。

2018年も、それぞれの担当で候補地の検討が始まっておりその中には宿泊を伴う集まりの計画もでてきています。

現在、クラブ活動等で多くの校友会の人と知り合えたのも、1年間の学園生活で養われた班の絆が原点ではないかと思えます。校友会活動を盛んにするためにも、班の集まりは引き続き大切に継続していくべきものと考えます。



柴又駅寅さん像の前

高齢者にとって充実した人生を送るには

きょういく（教育でなく今日行く＝今日、行くところがあること）、

きょうよう（教養でなく今日用＝今日、用事があること）……………が大事です。

班活動をはじめ校友会の活動に積極的に参加するなどして「きょういく」、「きょうよう」を身につけたいものです。

## 8班 2017年度 活動記録

8班 中田 関雄

2017年度は計画以上の班活動をすることが出来ました。これも皆様のご協力の賜物であり深く感謝申し上げます。

班長として気を付けたことは参加者の意見を幅広く聞き、調整し気の合った仲間が参加して良かったと思える企画を提案・実施することでした。班活動の結果、仲間意識が向上し、参加して良かった、今後も参加したいとの声を頂きました。若干の反省点を差し引いても及第点と判断します。

### 活動記録

1. 発足会（徳寿庵）・・・4月18日 参加者5名
2. 宮代駅前清掃ボランティア-1・・・6月13日 参加者3名
3. 東京湾クルーズとお台場・・・7月11日 参加者6名
4. 宮代駅前清掃ボランティア-2・・・9月25日 参加者3名
5. 造幣局支所見学と昼食・・・10月30日 参加者6名

2018年度は来期班長の元、さらなる親睦をはかる為に心身の健康を考慮した楽しい企画を提案したいと考えています。班員の融和を最優先に積極的に班活動に参画して行きます。



この一年間、いろんなことを楽しんだ私たち。

卒業懇談会を一緒に担当して気持ちがギュッと結ばれた5班と9班「出会い」の仲間は16名。

★ 6月3日（土）「皇居東御苑を見学・散策」10名

歴史的な史跡を見て、雑木林を歩いての心地よい疲れと暑さを感じた一日。

若い人たちが食べていた1時間並び待ちの「メロンパフェ(1,800円)食べたかったなあ。」

★ 7月27日（木）「夏の食事会」10名

曇り模様の蒸し暑い夏日にスペイン料理を楽しんだひととき。

お店の方から「ずっと楽しそうにおしゃべりが続いている皆さんを見ていて、

私も嬉しくなりました。」と笑顔(^o^)で言われて、ニッコリ。

★ 9月26日（火）「造幣局さいたま支局の見学」13名

貨幣と勲章の製造工程や日本の貨幣の歴史などを楽しく学んだ見応え十分な一日。

お昼は季節感溢れる昼御膳。「贅沢だな～、味わって食べようね。」

楽しい思い出は出来たけど何か物足りないなあ。あ、そうか！全員が揃うことがなかったからだ！

それぞれの事情があるので、なかなか全員が集まることは難しいよね。

でもなるべく会う機会を多く持って、少しでも長くこの「出会い」を大切にしたいね。

この一年間を仲間として過ごせたことに感謝して、また、みんなと一緒に楽しもうね！

ホームページの<5班&9班>「皇居東御苑を見学・散策して楽しむ」より

**参加者に“何でも一言”をお願いしたら、**

★ 待ち遠しかった6/3、天気にも恵まれて最高！食事をしながらのコミュニケーションも良かったです。

★ 参加する事に意義がある、その通りだなという事がつくづくわかりました。

★ 皇居東御苑見学、晴天に恵まれて楽しかった！！

★ 天気も良く、ガイドも良く、楽しい1日でした。又、来ても良いと思った。

★ ガイドさんの説明がわかりやすくて良かった。

★ 楽しい一日！東御苑もステキ！銀座の食事最高！ありがとうございました！

★ 今日は東御苑に来られて、緑いっぱい、天気にも恵まれ、友達と楽しい最高の一日でした。

★ 皇居東御苑の緑の美しさに感激。江戸城の歴史(石垣の積み方)も面白く、昼食も個室でゆっくりと本音が出て楽しかったです。

★ 歴史に思いを巡らし、緑に安らぎを感じ、会席膳を楽しんだ仲間たちとの有意義な一日にありがとう。

★ ボランティアガイドからの江戸城の説明、苑の中の植物の説明に満足しつつ、1時間半の散策は有意義なものでした。江戸城の石垣の立派さと、雑木林の先の杜若の群生咲き乱れ、眩しく、夏の訪れを告げていたのが特に印象的でした。そのあとの銀座での食事、大満足の日でした。



皇居東御苑を見学・散策 2017/6/3



造幣局さいたま支局の見学

## 六 友 会

6班 近藤 隆雄

六友会は第3回の一泊二日の那須・塩原親睦バス旅行の際、年間の活動予定の打ち合わせし、六友会カレンダーに（年間予定・校友会の行事予定・9名入部のタウンウォッチングの予定）を入力し全員にメールで連絡します。

変更・追加の場合はその都度更新をしながら計画を調整し活動をしております。



これからも六友会の  
繋がりがより強くできたらと  
願っています（^ω^）……



### 2017年度 六友会活動報告

	日 付	場 所	目 的	参加者
第1回	2月17日	居酒屋[磯八]	六友会 発足会	10名
第2回	2月24日	水戸偕楽園・那珂湊	六友会 卒業記念バス旅行	9名
第3回	4.20/21日	那須・塩原	一泊二日親睦バス旅行	9名
第4回	6月2日	埼玉県立近代美術館	小関さんの写真が県展入選 鑑賞	7名
第5回	7月27日	居酒屋 [オノオノ]	暑気払い	9名
第6回	10月4日	茨城県古河市	小京都 古河散策 夜に (3名参加)	9名
第7回	11月18日	草加文化会館	国際ハーブコンクール+松並木散策	7名
第8回	1月30日	[やまや] 新館予定	新年会+カラオケ予定	10名



## 2017年度春日部学園22期校友会7班活動記録

7班 齋藤 勉

奇数月第3金曜日を開催日とし予定月の担当を決める。

班長4月初旬～3週間入院、班員樹木の剪定中に落下負傷し長期欠席見込み情報、女性班員は体調不良検査入院などで欠席。この様なアクシデントが続いた状況での班活動を開始。

★5月26日(金) レストラン松にて食事会5名参加。

★7月14日(金) 7月28日に龍Q館見学の予定が予約時間遅れで予約できず。ぽぼら4Fで打ち合わせ後、オノオノにて昼食会7名参加

★9月22日(金) 清水公園バーベキュー大会7名参加久し振りのスムーズな開催  
1,000人収容のバーベキュー会場は平日の為閑散。

★11月24日(金) 築地場外市場散策、浜離宮恩賜庭園散歩と築地江戸銀寿司会食7名参加。  
場外市場は年末のアメ横の如く混雑、晩秋の庭園は静寂とし都心とは思えず、寿司を満喫。

★1月12日(金) 柴又帝釈天初詣と浅草散策7名参加。10時柴又駅前集合。

帝釈天参拝、寅さん博物館見学、川甚うな重を賞味後浅草寺参拝神谷バーで今年の抱負を語る。

★3月30日(金) 最終の食事会を予定(魚元にて開催)



## 婦 唱 夫 随

10班 M・S

最初は、3月に全員で卒業旅行に行こうということでした。さらに、これからも3カ月に一度は皆で集まることにしました。幹事は男女がペアとなり持ち回りです。メンバーは女性5人、男性が4人なので、ペアの相手は毎年変わることになります。

昨年は、女性陣からの提案で11月に一泊旅行があり、懇親会は5回になりました。3回の食事会と一泊旅行が2回です。旅にしろ、食べ歩きにしろ、女性の方からの提案が多く、男性陣はそれに便乗させてもらっているケースが多かったようです。

今年で2年目になりますが、マンネリに陥らないよう、多少の工夫が必要かと思っています。

時には、別の班の人を誘って一緒に懇親会を開くのもいいでしょうし、また、定宿のような所を決めておき、何かの時にはそこに集まるようにするのも便利かも知れません。

班の皆さんにとって、この会が参加する会ではなく、参加したい会であればいいのですが・・・



2017年4月～2018年3月 班・クラブ活動

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1班	花見	浅草東洋館	龍Q館 鎌倉・熱海旅行		柴又・帝釈天	
2班	杉戸宿	小林もみじ園	龍Q館			サンシャイン水族館
3班	花見	渡良瀬溪谷		横浜クルージング		
4班			柴又・帝釈天 丸の内イルミネーション		造幣局さいたま	鈴本演芸場
5・9班			皇居東御苑	食事会	食事会	造幣局さいたま
6班	塩原温泉	古河・松原散策	近代美術館	新年会		
7班		食事会 築地場外市場		食事会 柴又散策		清水公園BBQ 食事会
8班	造幣局さいたま			東京クルージング		
10班	3月卒業旅行 親睦旅行					
パソ コン	月活動/3回					
健康 気功	月活動/3回 春連協文化祭	太極全国交流			公民館フェスティバル	
カラ オケ	月活動/2回					
ソフト ダーツ	月活動/2回					
ボウリ ング	月活動/2回		ボウリング大会	ボウリング大会		ボウリング大会
ゴルフ	鹿沼カントリー	都賀カントリー	古河リンクス	渡良瀬カントリー		アゼリアヒルズ ひととのヤクヅ
ハイキ ング	日光周辺	千葉県鋸山		日光千住ヶ浜	秩父宝登山	
タウン ウォッチング	花見・荒川沿い	門仲清澄庭園	谷根千散策			三鷹吉祥寺散策
史跡 めぐり		小江戸川越	蔵の街とちぎ	御茶ノ水散策		足利めぐり
社交 ダンス	県連協ダンス		忘年ダンス	交流ダンス		

## 平成29年度 クラブ活動の報告

### タウンウォッチングクラブ

部長 大屋 保子

校友会のクラブ活動として、「タウンウォッチング」を立ち上げて5人位集まればと思い、安易な気持ちで呼びかけたところ、意外にも20人の同士が集まりました。

テレビなどで話題の「街歩き」や「路線バスの旅」を参考に出掛けます。春の「都電荒川線面影橋」の桜から始まり、「門前仲町・富岡八幡宮」の紅葉まで、回を重ねる毎に仲良く和気あいあいと、素晴らしい仲間作りが出来ております。今後も無理のない企画を心掛け、パワーを分け合い協力し、今年度も楽しい素敵な思い出作りの散策を続けて行きたいと思っております。



### ゴルフクラブ

部長 石川 晃

現在、ゴルフ部「彩春会」は男性5名、女性4名の9名が在籍している。



昨年の3月に顔合わせコンペを栃木のトムソンCCで行い、ほぼ隔月に5月の都賀、7月の渡良瀬、10月には鹿沼、そして12月に古河ゴルフリンクスで忘年コンペの合計5回開催した。最初は皆の実力も不明だったのでペリア方式で順位を決めたが、今では例会の実績からハンデを算定して行っている。ゴルフは実力の差をハンデで補正する競技なので、この会も毎回優勝者が異なっている。ハンデは妥当なのかと思っている。以前にホームページに書いたが、男性陣は大半が高齢で、体力、

気力ともに衰えて往年の実力が発揮できていない。一方で、女性陣は未だに元気旺盛で、成績も優秀である。

ゴルフ部「彩春会」の心配なことは、部員の高齢化によって参加部員数が減少していくことである。

会員の中で以前にゴルフの経験があって、少し練習して参加してみようという方は是非部員を通じて申し出ていただきたい。

部員一同、新入部員をお待ちしています。



## 社交ダンスクラブ「翔」

部長 奥野 長晴

### 人生の宝物「それは社交ダンスだ」

「社交ダンスを始めてよかった」

「他学園の方々と交流できた」

先輩方々は親切にしてくださるので、  
自分が初心者であることを意識しなくなった」

「社交ダンスって本当に楽しいわ」

これらは、伊奈学園・久喜学園・春日部学園交流ダンスパーティからの帰路、メンバーの口から出た言葉である。パーティではデモンストレーションや練習成果の発表会にも参加した。ゼロから始めて一年半経過、クラブメンバーのダンスにかける情熱と田村・池田両先生のプライベート的指導のおかげで、翔はここまで成長した。

社交ダンス愛好者の認知症罹患率はそうでない人の 1/7 だという。ダンスは健康寿命を延ばすための妙薬でもある。終生の宝物がここに在りだ。

(社交ダンスを英語では“**Ballroom dance**”と呼ぶ)



## カラオケクラブ

部長 梅本 宣詔

歌うことが大好きな人が集まり、現在 24 名で運営しております。日頃口ずさんでいる歌、テレビで聴いた歌など披露され楽しんでおります。



歌は世につれ、世は歌につれ、と言いますが、昔それぞれの苦しい時、悲しい時、嬉しい時を思い出しながらの熱唱が披露されております。

目下、メロディより感情移入、腹式呼吸による息継ぎを意識したりしています。歌手を目指している訳ではないので、

ただひたすらに各自の持ち味を出そうと努力しております。

これからは、常にアットホームな雰囲気、気軽に楽しく歌える、デュエット曲あり、全員で合唱したり、健康的にやっていきたいと思っています。

## 史跡めぐりクラブ

部長 有田 英一



2017年度も各班（A、B、C）で史跡めぐり企画、実行を行い予定通り終了。各史跡・名所等においてガイドさんの解り易い説明を頂き、自身の事前学習等により歴史力が大幅UP、素晴らしく意義ある一年であった。次年度も歴史力を伸ばすとともに目標である①会員相互間の親睦、②健康・体力の増進、③生涯学習の充実を目指そう！

① 「蔵の街・とちぎ」【5月】⇨塚田歴史伝説館の人間ロボットは完全に人が演技している光景、日本の技

術力の凄さに驚嘆。

② 「学び舎の街・あしかが」【9月】⇨自学自習の精神を今に伝える教育の原点（日本最古の学校）足利学校の入学証をいただき、ますます勉学に燃える。

② 「小江戸・川越」【11月】⇨徳川3代に仕え、喜多院の復興に大きく貢献した天海僧正（108歳の生涯）の長寿歌「気はながく」「勤めはかたく」「色はうすく」「食ほそうして」「心ひろかれ」が心に響く。

④ 「お茶の水界限散策」（1月）⇨神田明神参拝、今年も健康、多幸を祈る。

## 健康気功クラブ

## 健康長寿を目指して

部長 新田 照幸

健康気功クラブは春日部市の公民館で金曜日の午前中に3回/月ほど10名が練習しています。今年度の活動はやはり春連協文化祭での演技発表で、練習の成果が発揮できたのではと自画自賛

しています。文化祭前日の練習では全員が演技を揃えることができず、不安のまま当日を迎えることになりました。そして先輩15期、16期の演技には圧倒されましたが、部員が本番に強い（？）ところを発揮し、納得のいくレベルの演技ができたのではおどろかと思っています。

11月には2017年太極拳全国体協交流大会が東京体育館で開催されました。先輩（15期、16期、元気クラブ）と合同練習を行い、当日は全日本導引養生功連盟

のチーム（総勢161名）に加わり演技をしました。次は、2018年2月25日（日）の春日部公民館フェスティバルに向けて新たに演技を習得中です。一つの演技に今まで習得した基本演技が2つも3つも合体しています。脳の活性化にはとってもいいのですが演技習得にかなり苦戦しています。体を動かし頭を使う、こうした努力を積み重ねることで健康長寿者に一歩でも二歩でも近づけたら幸いです。



## ソフトダーツクラブ

部長 船川 美智雄

シャトルをボードに当て得点で一喜一憂しています。運不運もありますが、データを見ると矢張り一番は斉藤勉さん。本人も自負があり勝負のときはピリピリです。ビューンと勢いよく投げるのは小暮さん。家で上腕筋を鍛えているか？一度逞しい二の腕を拝みたい。細い体をしなるようにいとも簡単に投げバンバン高得点をあげるのは飯窪道子さん。未恐ろしい逸材。シャトルを投げる軌道がきれいなのがリラックス戸笈はる江さん。暗算が得意スコア付けは朝飯前。私ダメ！と言いながら、乗ってくると意外に強いのが湯浅志津恵さん。ほめると伸びるタイプ。ムードメーカーの戸賀崎俊子さん。いつもにこにこクラブの雰囲気づくりに貢献。平均してスコアが高いのが柴田美登里さん。器用なのか、カラオケもうまい。独特の投げ方で高得点を出すのが斎藤慶治さん。侮れない。エクセルの関数に感服。

努力の人は、塚谷サトさん。なぜそんなに頑張れるの？スコアはいつも高水準。器用貧乏は大木實さん。ゴルフもボウリングもカラオケも…みんな上手でずるい…。もう何も望みません。来年も楽しくできたらいいですね。



## ニコニコパソコンクラブ

部長 岩本 春次

活動場所：春日部視聴覚センター（研修室）

活動日：月3回、金曜日

（13時～17時）＜15時～17時はフリータイム＞  
校友会発足から早9ヵ月、7月頃までは文章のベタ打ち後、編集記号を表示して最大限機能を利用し文章の仕上げ操作。

その後、地図の作成と図形描画に入りましたが、範囲が広く多くの時間を費やしました。

昨年中には案内（チラシ等）の作成・・・

（文章に地図と写真を取り込んで完成する。）

1月からは、デジカメ・スマホからパソコンに移動

して項目別に整理する（自己流に覚えている方が殆どの為、正式にマスターする）操作に入りました。

今後はメールの取扱い（送、受信の扱いも自己流の為、無駄が多いと思われます…先生より）

習った事を忘れる事は常にありますので、遠慮なく質問できる雰囲気の状況にあります。

活動日の変更は不可能（他の日は予定を組んである）ですので、今迄通り和気あいあいと

楽しい時間を過ごしていきます。



## ハイキングクラブ

部長 上西 英一

### 驚き・不安と新しい仲間たちとの1年



平成17年4月に新生ハイキング部が26名でスタートしました。

前年度は10名の少人数で活動しましたが、この大所帯をどのような活動にするか不安でしたが、案ずるより産むがやすしで、皆さんの篤い協力を得ることが出来ました。ただ新メンバーの体力等、未知数でしたのでコースの選定には各班苦慮されたようです。

この1年間は無理をせず、ハイキングの楽しさを皆さんと共に分かち合えたらと思い、実施してきました。

4班にグループ化し、計画立案から実行までを各班に任せ全員参加の活動を行ってきました。今年度は生憎、あまり天候には恵まれませんでしたが、その分温泉に入ったり、談笑の時間が多く取れ、親睦を深めることが出来た1年でした。

まだ2月23日の秩父長瀨・宝登山ハイキングが予定されています。

次年度も安全第一をモットーに、楽しく健康なハイキングを目指したい。

One for ALL / ALL for ONE

## ボウリングクラブ

部長 小山 笑子

### ボウリングにかけるロマン



部の中で一番経験のない人の部長がいいだろうとのことで、経験不足で引き受けて、皆さまに助けてもらいながら 早、1年目を迎えようとしています。

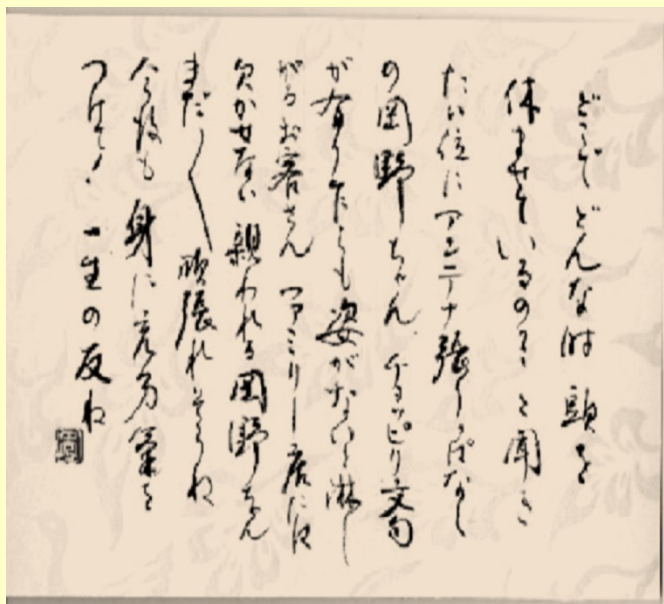
1班が主体となり発足したボウリングクラブです。私自身は健康ボウル教室に参加したりと努力をしてきましたが、実力が伴わない日々です。

北部地区(7月大会優勝)～ 春日部地区(12月優勝)～ 南部地区(3月予定)と地区リーダーを中心に、皆さまが自主的に担当・協力しながら頑張っておられるので、部長としては樂をし、非常に助かりました。

クラブ員の皆さま、ほんとうにありがとうございました。残りわずかとなりましたが最後まで頑張っていきたいと考えています。

## 「私の人生」

3班 岡野 文江



学校を卒業して右も左も分からない私が初めて仕事に就いたのは、銀座にある化粧品会社でした。あの頃は都電の時代でした。講習会に行き、商品知識・価格・肌の手入れ等の仕方などを勉強し、販売できるまでの道のりは、大変でしたが若かったこともあり、そのおかげで今まで、人と接することが楽しくでき、信頼関係が培われ名前・住所等などを憶えることができました。

商品を売るにあたり、人との繋がりがとっても大切だと痛感しました。

人前で話をするときは、うまくいかない時もありましたが・・・気持ちを読み取る努力ができるようになったので、続けてこれたのかなあと

思っています。結婚してからは、それらの経験をいかして、新たな洋装の仕入れ・販売等の仕事に就き、コーディネーターとしての役割を兼ねて、お客さまが綺麗になるという楽しさに出会い、笑顔あふれる日々でした。今でも、以前の仕事の関係で着付けの手伝い等などもして、ご家族の皆さまとも仲良くさせていただいてる日々です。

これからも楽しく人生を過ごしていきたいと考えています。

## 「タイブレークの思い出」

3班 梅本 宣詔

最近、高校野球で話題になっている、タイブレークの導入問題。ソフトボールでは昔から採用されていました。点の取りっこをして早く決着をつけたいとのルールです。10年前に開催された、埼玉県県民総体の小学生女子ソフトボール大会において、我が団地（武里ソフトスポーツ少年団）は、優勝を目指して、子供にしては過酷かなと思うくらい猛練習をし、県レベルでもかなり強いチームに仕上がりました。やっと優勝戦までこぎ着け、2対2と接戦のまま、延長戦になり当時では珍しいタイブレークが適用されました。言われるままに、無死二塁走者を置いてのプレイとなりました。先行の為、表の攻撃から始まり何とか1点を取ることができ、3対2として8回裏相手チームの攻撃を迎えることになりました。バントで一死と四球・四球で一死満塁のピンチです。ここで一発打たれば、完全にサヨナラゲームとなります。キャプテンをつとめる捕手の選手が、まだ負けていないのに、悲しそうな仕草をしていました。相手打者も必死で強振してきました。やられたと思った瞬間、ボールが投手の真正面に飛び、すぐさま捕手に投げてこれでツーアウト、ここで奇跡と思える、猛練習の成果が出て、捕手は素早く一塁へ投げ、一塁手が手を伸ばし、見事ボールをキャッチしたため、一瞬にして、難しいダブルプレイが成立して、優勝の瞬間を迎えることができました。もう選手たちは涙目のまま整列し挨拶後は、お互いに抱き合いながら、喜びに溢れ、みんな号泣していました。

タイブレークのお陰で、県で優勝という念願かない、いまだに、あの感動シーンが、忘れられない良き思い出となりました。





## 我が故郷「三重県伊賀市」

3班 梅本 宣詔

風光明媚な山々に囲まれた盆地の真っただ中にできた城下町が我が故郷です。

徳川家康に外様藩士として仕えた藤堂高虎が築いた「白鳳城」があります。

お堀の石垣が日本一高く、伊賀の国が一望できる絶景なるお城が、そびえております。

秀吉の時代は東側に城塞を築き、徳川の天下の時は西側に現存の城壁が築かれています。

歴史家が最も好むこの領土は、忍者の里として、武勇に優れた冠者が多数排出され、全国各地に雇われて行きました。それらを演出している著書も、最近では和田竜の「忍びの国」では織田信雄(信長の息子)と戦いでゲリラ戦法を用い痛快に打ち破ったと描かれております。直木賞受賞の司馬遼太郎「梟の城」等枚挙にいとまがありません。最も著名な俳聖「松尾芭蕉」の生誕地となっています。



白鳳城



俳聖殿

忍者とも疑われている「松尾芭蕉」5千キロを5ヶ月で旅をしたといわれています。

松尾芭蕉の旅姿を描いた建物「俳聖殿」我が小学校の裏側の公園にあり、当時の恰好の遊び場所であり、探検ごっこにはもってこいの公園でした。

毎年、芭蕉祭が催され、小学生全員に俳句の提出を求められたものでした。

「古池や、蛙飛び込む、水の音」を詠んだとされる、蓑虫庵は同じ町内で今も残っています。

良く映画にもなり、日本三大敵討ちとして有名な、荒木又右エ門の「決闘鍵屋の辻」が公園となり仇敵を待ち伏せした茶屋が現存し、観光スポットとして、人気があります。

今から思えば良き故郷と映りますが、血気盛んな若者は、どんどん憧れの都会へ進出して行きました。我が実家は今もあるのですが、空き家となっしまい、処分に困る状況にあります。

大阪・名古屋・東京で働く意欲が強く、7割が故郷離れ現象でしたが、最近になって、深い歴史と伝統ある街であることが分かり、ふるさとの良さを見つめなおしている次第です。

## 帰ってきた フラメンコ人形

3班 石川 晃

我が家の玄関には赤いフラメンコ人形がある（写真1）。同じ青い人形が都内の娘の家にもあった。私は40年ほど前に、仕事で南米のベネズエラに1年半滞在した。出張を終えて帰国の際に、妻とニューヨークで合流してイタリア、ギリシャなど5か国を観光した。日本に残した小学生の一人娘の土産に、スペインでフラメンコ人形を買った。成田に到着すると、成田闘争の影響と開港直後で入国が混乱した。久しぶりに我が家に着くと、人形が



無くなっているのに気がついた。翌日、関係先に問い合わせが見つからなかった。その後、妻は娘の大学入学の翌年に亡くなったのだが、この人形の話は最後まで気にかけていた。紛失から20年ほど経って娘夫婦がスペインを旅行した際、お土産といって大きな包みをくれた。紛失したのと殆ど同じフラメンコ人形だ。以前に私が話した場所を娘は覚えていて、同じものを買ってきたのだ。

長い年月を経て人形はようやく我が家に戻ってきた。このエピソードは、娘が対談した記事が雑誌に掲載された（写真2）そして更に10数年が経過した。

今は青い人形も我が家に戻っている。2年前に逝った娘の部屋の片隅にひっそりと置かれている。

40年もかかったこの人形の長い旅は終わった……（合掌）

## 妻を亡くして想う

10班 増山 茂夫

人生を共に生きた最愛の妻を亡くし、常に思うのは孤独感のひとことに尽きます。よりどころを失い、どうしてよいやら途方に暮れる毎日、どのように現在に至ったかを記します。

生と死を一つと捕らえる事により、生きた証を見詰め、良いところを学び、生きる大きな力となったと思う。妻は心の中で生きていることに気付き、妻の残した言葉を生きる支えにしております。妻を亡くし、もういないのだと思うだけで当時は涙が止まらなかった。そんな日が何日も何日も続いた。どうすればこの悲しみを乗り越えられるか、涙を流すのは当然ですが、月日がたつに従って気持ちが落ち着くようになっていったと思う。亡くなった妻の良い事、好きな花、よく二人で旅行をした事等、思い出すことですくわれる。当時は大きな挫折感にとらわれ、生きるのが辛くて自分自身を冷静に見ることが出来なくなってしまった。しかし、いつかは何とかなると言うアバウトな気持ちが大切です。病院では一日でも長くいられるように祈る、そんな事しかできなかった事、薬漬けの毎日にもかかわらず、妻が私の帰りには「美味しいものでも食べて力をつけて帰ってね」と言ってくれ、私のことを気遣ってくれた事に感動し、涙しました。妻の気持ちを思うと途中で食事をする気になれず、弁当を買ってはそそくさと家に帰る毎日でした。最近では多くの人に会うようにし、同じ境遇の人がいかに多いかを知らされました。妻とたくさん旅行をした事等、誰よりも濃密な人生を全うされたと思うようになり、妻の遺した足跡を受け止めて、共に心の中で考えるようにしています。以上のことは宿命として受け容れなければならないと思っている。

“幸の本質は、何も起きない平穏な日常生活が本当の幸であると思っています”

俳句 短歌

鬼怒川は 夕べの雨に 水深し  
ライン下りの 船足早し

地方出身の私は 小さい頃から 風景画が好きで常に描いていました。 自然の すばらしい彩りの 四季を描き、美しい大自然に 魅せられています。 最近はその自然の姿を短歌に しようとは始めました。 始めてみると 日本語の すばらしさに 感動し 体験談を 作句しています。

十班 増山 茂夫

若き医師 妻の顔に  
目もやらず  
手術の説明 淡々と述ぶ

うづくまり 夫の爪切る 霜夜かな  
つま  
老いの手を引く 兎の笑顔 照紅葉  
てりもみじ  
五班 柴田 美登里

俳句は「自然と人とのふれあい」の詩

季節の移ろい 日常の一瞬を

想いを込めて 大切に詠んでいます

送る淋しさ 待つときめき

暫し留めん 彼の景色

瓢湖にて

連れ添って 海はるばると 小白鳥  
クオークオーと 君の呼ぶ声 冴返る

四班 小暮 久子



### 編集後記

「ときめき」2号をお届けします。

校友会の皆様のご協力により、予定通り発行することができました。ありがとうございました。

### 編集担当(広報部員)

秋葉ちずる 小山笑子 葛西博行 鈴木洋子 塚谷サト 新田照幸 真野征典 山内日出男

平成30年3月発行